

社会医療法人恵愛会 大分中村病院

初期臨床研修プログラム



臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度・技能・知識)を身に付けることのできるものでなければならない。

厚生労働省



はじめに

当院は、大分駅から東へ 2 キロ、大分川の舞鶴橋たもと、北に別府湾が一望できる地に位置します(260 床、27 診療科)。「病気だけでなく本気で、人間と向き合う。」を“こころざし”とし、二次救急医療とリハビリテーションを二本柱として、地域包括ケアのハブ病院となることを目指している社会医療法人です。

病棟は、急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟と重症度別です。大分市中心部で救急・急性期のみならず、亜急性期やリハビリテーションにより社会復帰までの「寄り添う医療」を、コンパクトな家庭的雰囲気ですべて研修できます。

研修プログラムの特色

初期臨床研修では当院が掲げている「医療による社会貢献」の基本理念のもとに、地域に密着した第一線の医療現場での初期臨床研修を行い、幅広い確実な診療能力を修得することを目指すのが特色です。

救急医療

ER(緊急救命室)では、24 時間 365 日救急患者さんを受け入れ、医師や看護師をはじめ、さまざまな職種が専門性を発揮して、命の危機の原因を速やかに見つけ出し、スタッフのチームワークと迅速で的確な判断力で適切に対処し、命をつないでいきます。

指導医による研修

循環器内科、総合診療科、消化器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、外科、整形外科、脊椎外科、手外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、婦人科、麻酔科、救急科の各専門医による研修が可能です。一方で「チーム医療」が実践されていて、「専門科」による壁はなく、他科の専門医に気軽にコンサルテーションできます。

研修では、各専門医の指導のもとに専門領域の医療をより深く研修することができます。

必修科目、内科・外科・救急(麻酔科含む)・小児科・産婦人科・精神科・地域医療は、大分中村病院および研修協力病院においてよりよい臨床研修を実践しています。

選択研修では大分中村病院と大分大学医学部附属病院(内科系・外科系・産婦人科・放射線科・麻酔科(集中治療部)当院にない診療科)との「たすきがけ研修」ができます。

講習会への参加

病院全体の職員講習会・講演会への参加、社会活動への参加、医療倫理、感染症予防対策や医療安全管理等の活動を実践することにより、医療安全の基本と医師の基本的価値観等を修得することができます。

「BLS」、「ICLS」、「エコー勉強会」、「ER カンファレンス」、「心電図勉強会」、「心臓リハビリテーション勉強会」、「がん化学療法・緩和ケア勉強会」、「糖尿病勉強会」、「救急症例検討会」、「ACP 勉強会」等を院内外より講師を招き開催しています。これに参加し、より実地に則した研修をすることができます。

地域医療

地域医療の研修は、患者の日常の生活に接し、かつその地域の特性に即した医療を実践し研修するために、へき地診療所・地域の中小病院・診療所にて研修を行います。

リハビリテーション・社会福祉など

リハビリテーション部門では、総合リハビリテーションセンター(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー)や回復期リハビリテーション病棟(80床)で個々の患者ごとに治療計画を作成し、早期離床に務めており、超急性期から回復期までのシームレスな研修ができます。

社会復帰促進のため地域医療連携部門を設け、各種相談に応じる一方、社会福祉法人「太陽の家」との連携を密にしており、社会福祉、地域医療の研修ができます。

当院の理念と基本方針の実現に日夜取り組んでいる熱心で優秀な指導医による研修が、皆さんにとって有益で最適な初期研修となることを期待しています。

臨床研修プログラムの概要

I 病院の概要

行動指針

私たちは「病気だけでなく本気で、人間と向き合う。」というこころざしを大切にしています。その思いを確かな実践へと結びつけるために、3つの行動指針を定めています。

1. ひとりの人間に、寄り添う。
命に、暮らしに、地域に。これからも真摯に、寄り添いつづけよう。
2. はたらく仲間を、認め合う。
役割の違いはあっても、優劣はない。話し合い、認め合い、歩み寄ろう。
3. これからの医療を、学び続ける。
医療は、進歩している。常に新しい知見を吸収し、成長をしつづけよう。

| | |
|--------|--|
| 病床数 | 260床 |
| 診療科 | 整形外科/脊椎外科/手外科/外科/腫瘍外科/脳神経外科/内科/循環器内科/消化器内科/腎臓内科/糖尿病内科/総合診療科/呼吸器内科/緩和ケア内科/形成外科/泌尿器科/リハビリテーション科/肛門外科/リウマチ科/心臓血管外科/婦人科/骨盤底リハビリテーション科/放射線科/皮膚科/麻酔科/救急科 |
| 研修施設認定 | 厚生労働省臨床研修指定病院(基幹型・協力型)/ 厚生労働省外国医師臨床修練指定病院/日本整形外科学会整形外科専門医研修施設/日本内科学会認定医師制度教育関連/日本外科学会専門医制度修練施設/ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院/日本形成外科学会認定医研修施設/ 日本循環器学会専門医研修施設/日本呼吸器学会教育関連施設/ 日本感染症学会研修施設/日本消化器病学会認定施設/日本消化器外科学会大分大学附属病院関連施設/日本腹部救急医学会認定施設/日本消化管学会教育施設/ 日本手外科学会専門医基幹研修施設/日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設/ 日本がん治療認定医機構認定研修施設/日本緩和医療学会認定研修施設/ 日本糖尿病学会認定教育施設/日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設/ 日本専門医機構/大分大学救急科専攻医プログラム関連施設 |

Ⅱ 研修プログラムの特色

臨床研修管理委員長/プログラム責任者

整形外科部長(手外科) 園田 広典

初期臨床研修では、医師としての人格を涵養するとともに、病める人の尊厳を守り、全人的医療を施すことができ、幅広い基本的な診療能力を身につけることが求められている。本院での研修プログラムは、本院が掲げている「医療による社会貢献」の基本理念のもとに、基本的診療業務である一般外来治療、初期救急対応、病棟診療および地域医療に密着した第一線の初期臨床研修を行い、確実な診療能力を修得することを目指すのが特色である。

1. 当院は大分保健医療圏における二次救急医療機関であり、内科系専門医、外科系専門医による密な横断的な連携のもとに、救急医療に対する総合的な研修ができる。
2. 当院での研修期間には、指導医とともに所属する診療科に搬送された救急患者の対応を行い、救急医療の研修ができる。
3. 臨床研修における到達目標を十分に達成するため、原則として、内科 24 週以上、外科 8 週以上、小児科 4 週以上、産婦人科 4 週以上、精神科 4 週以上、地域医療 4 週以上、救急 12 週以上(麻酔科 4 週)を含めた必須分野とし研修する。
4. 一般外来研修は、内科研修中に週 1 日並行研修を行う。
5. 小児科、産婦人科、精神科、地域医療の研修は協力病院(施設)にて行う。
6. リハビリテーション部門では、個々の患者ごとに治療計画を作成し早期離床に務めており、超急性期から回復期までのリハビリテーションの研修ができる。
7. 当院は地域の診療所との連携を取りながら、社会復帰促進のため地域医療連携部を設け各種相談に応じる一方、離島診療所・地域の中小病院とも連携し、さらに社会福祉法人太陽の家(関連施設)との連携を密にしており、社会福祉、地域医療の研修ができる。
8. 「BLS」、「ICLS」、「ER カンファレンス」、「エコー勉強会」、「心電図勉強会」、「心臓リハビリテーション勉強会」、「がん化学療法・緩和ケア勉強会」、「糖尿病勉強会」、「各科のカンファレンス」、「救急症例検討会」、「ACP 勉強会」、「緩和ケア」、「感染対策」などに参加し実地に則した基本的な技術・知識を修得することができる。
9. 病院全体の職員講習会・講演会への参加、学会参加、社会活動への参加、感染予防対策や安全管理等の活動を実践することにより、医療の社会的使命、医療安全の基本等を修得することができる。
10. 選択研修では、大分大学医学部附属病院(内科系・外科系・産婦人科・放射線科・麻酔科(集中治療部)当院にない診療科)において、「たすきがけ研修」をすることができる。(1~3ヶ月間)

Ⅲ 研修体制

当院を基幹型臨床研修病院とし、5ヵ所の協力型臨床研修病院と、8ヵ所の臨床研修協力施設とともに大分中村病院群を形成する。

大分中村病院臨床研修病院群

| NO. | 種別 | 担当分野 | 名称 |
|-----|-----------|--|------------------------------|
| 1 | 基幹型臨床研修病院 | 内科・外科・救急(麻酔) | 大分中村病院 |
| 2 | 協力型臨床研修病院 | 小児科 | 大分こども病院 |
| 3 | 協力型臨床研修病院 | 精神科 | 衛藤病院 |
| 4 | 協力型臨床研修病院 | 内科系・外科系・産科婦人科・放射線科・麻酔科(集中治療部)・当院にない診療科 | 大分大学医学部附属病院 |
| 5 | 協力型臨床研修病院 | 産科婦人科・精神科 | 大分県立病院 |
| 6 | 協力型臨床研修病院 | 産科婦人科 | 別府医療センター |
| 7 | 臨床研修協力施設 | 産科婦人科 | いしい 産婦人科醫院 |
| 8 | 臨床研修協力施設 | 産科婦人科 | あおい産婦人科 |
| 9 | 臨床研修協力施設 | 地域医療 | 佐賀関病院 |
| 10 | 臨床研修協力施設 | 地域医療 | ハートクリニック |
| 11 | 臨床研修協力施設 | 地域医療 | えとう内科病院 |
| 12 | 臨床研修協力施設 | 精神科 | 鶴見台病院 |
| 13 | 臨床研修協力施設 | 保健・医療行政 | 社会福祉法人 太陽の家 身体障がい者支援施設ゆうわ |
| 14 | 臨床研修協力施設 | 保健・医療行政 | 東部保健所 |

IV 研修スケジュール

(例示)

| | | | | | | |
|-------------|-------------|--|------|----|--|--|
| 1 年 目 | 4月 | <ul style="list-style-type: none"> • オリエンテーション 1週間 • 内科系 24週以上 週1日一般外来を並行研修 循環器・消化器・糖尿病・総合診療科・呼吸器内科 ※原則として、各診療分野を、1~2ヶ月ごとにローテート • 外科系 8週以上 整形外科(脊椎外科、手外科)・外科・脳神経外科 形成外科・泌尿器科・婦人科 ※外科を基本に、1診療科以上選択ローテート • 救急科 4週以上 • 麻酔科 4週以上 | 一般外来 | | | |
| | 5月 | | | | | |
| | 6月 | | | | | |
| | 7月 | | | | | |
| | 8月 | | | | | |
| | 9月 | | | | | |
| | 10月 | | | | | |
| | 11月 | | | | | |
| | 12月 | | | | | |
| | 2 年 目 | | | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> • 産婦人科・精神科・小児科 各4週以上 1年次の10ヶ月目以降から研修可能 協力型臨床研修病院(施設)で研修を行う • 地域医療(一般外来含む) 4週以上 2年次に必ず研修を行う • 選択研修 52週 大分中村病院 循環器内科 / 消化器内科 / 糖尿病内科 / 総合診療科 / 呼吸器内科 / 整形外科(脊椎外科、手外科) / 外科 / 脳神経外科 / 形成外科 / 泌尿器科 / 麻酔科 / 婦人科 / 救急科 たすきがけ研修※ 大分大学医学部附属病院 呼吸器・感染症内科 / 内分泌・糖尿病内科 / 膠原病内科 / 腎臓内科 / 消化器内科 / 神経内科 / 循環器内科 / 血液内科 / 腫瘍内科 / 消化器外科 / 呼吸器外科 / 小児外科 / 心臓血管外科 / 脳神経外科 / 整形外科 / 形成外科 / 乳腺外科 / 放射線科 / 産科婦人科 / 麻酔科(集中治療部) その他当院にない診療科について選択可とする。 保健・医療行政 社会福祉法人 太陽の家 / 身体障がい者支援施設ゆうわ / 東部保健所 大分大学医学部附属病院、保健・医療行政の研修期間は、合わせて4週~12週まで ※たすきがけとは、大分中村病院をベースに他の病院または施設で研修すること。 | |
| | | | | 2月 | | |
| | | | | 3月 | | |
| 4月 | | | | | | |
| 5月 | | | | | | |
| 6月 | | | | | | |
| 7月 | | | | | | |
| 8月 | | | | | | |
| 9月 | | | | | | |
| 10月 | | | | | | |
| 11月 | | | | | | |
| 12月 | | | | | | |
| | 1月 | | | | | |
| | 2月 | | | | | |
| | 3月 | | | | | |

1. 2年間の初期研修は、原則としてオリエンテーション約1週間を含めた必修科目(内科24週以上、救急(救急4週・麻酔科4週含む)12週以上、外科8週以上、一般外来4週以上、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療をそれぞれ4週)、選択研修を52週行う。
2. 1年次は、研修開始時のオリエンテーション約1週間、原則として内科研修24週以上、外科研修8週以上、救急科4週以上、麻酔科4週以上行う。
3. 1年次の研修10ヶ月目以降に、協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設において、到達目標達成のために小児科4週以上、産婦人科4週以上、精神科4週以上研修を行う。
4. 2年次の選択研修では、大分大学医学部附属病院、保健・医療行政施設で4週～12週まで研修をすることができる(たすきがけ研修)
5. 地域医療研修は2年次以降に4週以上研修する。
6. 救急医療は、1年次に救急科4週以上、麻酔科4週以上、2年間の夜間当直研修を合計して12週以上となるようにローテートする。
また本院での選択研修の期間は、随時所属する各診療科に搬送される救急患者を対応し、救急医療の研修を行う。
7. 外来、病棟、当直、検査等の業務
指導医のもとに一般外来診療を行い、病棟では受け持ち患者の診断、治療等を行い、当直研修を行う。
指導医のもとに注射(IVHを含む)、採血、手術、検査などの基本的な医療行為を研修する。
8. 臨床病理検討会(CPC)
すべての研修医は出席する。
病理解剖は、当院の病理医不在のため実施できないため、大分大学医学部附属病院もしくはアルメイダ病院に依頼して実施する。
CPCは当院もしくは病理解剖を実施した病院で、双方の医師と当院研修医が集まり、当院主催で実施する。
9. 院内講習会・講演会・院内勉強会・カンファレンス、すべての研修医は積極的に参加する。
10. 全研修期間を通じて、感染対策(院内感染や性感染症等)、予防医療(予防接種等)、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP・人生会議)、臨床病理検討会(CPC)等、基本的な診療において必要な分野・領域に関する研修を含むこと。

V 研修ローテーション

●必修科目および選択必修科目

- ①オリエンテーションの未受講者は、臨床研修を受けることはできない。
- ②選択必修科目 内科 24 週以上、救急(麻酔科 4 週含む) 12 週以上、外科 8 週以上、一般外来・小児科・産婦人科・精神科及び地域医療をそれぞれ 4 週以上を原則として、到達目標達成のために全て研修することとする。

| | |
|---------------------------------|--|
| オリエンテーション | 研修最初の約 1 週間、医師としての基本的姿勢、病院の概要、医療保険制度、医療における IT、病診連携、リスクマネジメント、感染対策、個人情報保護法、在宅医療、脳死判定、臓器移植などについて、オリエンテーションを受ける。 |
| 内科研修(24 週以上) | 原則として、循環器、消化器、糖尿病、総合診療科、呼吸器内科に分かれて研修する。 |
| 外科研修(8 週以上) | 外科、整形外科(脊椎外科・手外科)、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、婦人科および麻酔科の診療科のうち、外科を基本に 1 診療科以上を選択し研修する。 |
| 救急研修(12 週以上) ※(内)麻酔科研修 4 週含む | ER、救急外来において救急医療の基本を修得する。 |
| 一般外来(4 週以上) | 原則 1 日/週(1 年次内科研修中)とし、内科指導医のもとで一般外来を担当する |
| 小児科研修(4 週以上) | 大分こども病院にて研修する。(1 年次の研修 10 ヶ月目以降に研修する) |
| 精神科研修(4 週以上) | 衛藤病院、大分県立病院、鶴見台病院を適宜選択し研修する。 (1 年次の研修 10 ヶ月目以降に研修する) |
| 産科婦人科研修(4 週以上) | いしい産婦人科醫院、あおい産婦人科、大分県立病院産科婦人科、大分大学医学部附属病院産科婦人科、別府医療センターを適宜選択し、研修する。 (1 年次の研修 10 ヶ月目以降に研修する) |
| 地域医療研修(4 週以上) | 佐賀関病院、えとう内科病院、ハートクリニック、を適宜選択し、研修する。 (2 年次に研修する) |

●選択研修

- ①原則 52 週、希望する診療科を選択する。
- ②選択研修では必修科目で修得できなかった項目を補うほか、専門医にむけてのステップと位置づけることが出来る。
- ③選択研修は、以下の当院の診療科、および大分大学医学部附属病院、保健・医療行政施設でのたすきがけ研修(4 週～12 週)をすることができる。

| | |
|-----------------|--|
| 大分中村病院 | 循環器内科/消化器内科/糖尿病内科/総合診療科/呼吸器内科/外科/整形外科/脊椎外科/手外科/脳神経外科/形成外科/泌尿器科/婦人科/麻酔科/救急科 (順不同) |
| 大分大学医学部 附属病院 | 呼吸器・感染症内科/内分泌・糖尿病内科/膠原病内科/腎臓内科/消化器内科/神経内科/循環器内科/血液内科/腫瘍内科/消化器外科/呼吸器外科/小児外科/心臓血管外科/脳神経外科/整形外科/形成外科/乳腺外科/産科婦人科/放射線科/麻酔科(集中治療部)/その他当院にない診療科 (順不同) |
| 保健・医療行政 | 社会福祉法人 太陽の家 身体障がい者支援施設ゆうわ/ 東部保健所 |

VI 指導体制

1. 当院の総合臨床研究センターに、卒後臨床研修センター(以下、センター)を置き、臨床研修全般を管轄する。
2. センターには、臨床研修管理委員会(以下、管理委員会)を置き、センター長が委員長を務める。
3. プログラム責任者、管理委員会委員長および指導医が研修プログラムと研修方針の決定、研修医全体の管理や研修評価等、研修医に関する事項を協議する。
4. 臨床研修は、指導医による1対1指導体制を原則とする。
5. 指導医は、研修医の研修プログラムの遂行、総括的な指導およびその評価を行い、センター長へ報告する。
6. プログラム責任者は、随時研修医が研修期間に目標を達成できるように調整する。
7. センター長は、指導医の評価報告に基づき、管理委員会へ図り、目標の到達状況を評価する。
 病院長は、管理委員会の研修評価の結果を受けて、研修修了証書を交付する。
 なお、評価の結果、臨床研修の修了が認められない場合は、その旨を当該研修医に文書で通達する。

2026年度 大分中村病院 臨床研修管理委員会 名簿

2026年4月1日現在

| 氏名 | 所属 | 役職 | 備考 |
|-------|----------------------------|-----------------|------------------|
| 中村 太郎 | 大分中村病院 | 理事長 | 設立者 |
| 七森 和久 | 大分中村病院 | 院長・リハビリテーション科部長 | 管理者 |
| 園田 広典 | 大分中村病院 | 整形外科部長 | 研修管理委員長・プログラム責任者 |
| 久我 修二 | 大分こども病院 | 院長 | 研修実施責任者 |
| 河野 康志 | 大分大学医学部 産科婦人科 | 准教授 | 研修実施責任者 |
| 大神 達寛 | 大分県立病院 産科婦人科 | 産科部長 | 研修実施責任者 |
| 大屋 譲 | 佐賀関病院 | 院長 | 研修実施責任者 |
| 石井 照和 | いしい産婦人科醫院 | 院長 | 研修実施責任者 |
| 本多 和夫 | あおい産婦人科 | 院長 | 研修実施責任者 |
| 松永 研一 | とう内科病院 | 院長 | 研修実施責任者 |
| 小野 隆宏 | ハートクリニック | 院長 | 研修実施責任者 |
| 山本 正史 | 鶴見台病院 | 院長 | 研修実施責任者 |
| 穴見 愛 | 別府医療センター | 医長 | 研修実施責任者 |
| 神鳥 澄男 | 社会福祉法人太陽の家 身体障害者療護施設ゆうわ | 施設長 | 研修実施責任者 |
| 藤内 修二 | 東部保健所 | 所長 | 研修実施責任者 |
| 安武 千恵 | 安武クリニック | 院長 | 有識者(外部医師) |
| 渡邊 充 | 大分中村病院 | 副院長 | 研修管理委員 |
| 芳原 聖司 | 大分中村病院 | 形成外科部長 | 研修管理委員 |
| 鎗水 浩治 | 大分中村病院 | 糖尿病内科部長 | 研修管理委員 |
| 平田 裕二 | 大分中村病院 | 泌尿器科部長/透析部長 | 研修管理委員 |
| 河邊 聡 | 大分中村病院 | 麻酔科部長 | 研修管理委員 |
| 松成 修 | 大分中村病院 | 消化器内科部長/救急科部長 | 研修管理委員 |
| 西田 純一 | 大分中村病院 | 産婦人科部長 | 研修管理委員 |
| 瀧本 理 | 大分中村病院 | 脳神経外科副部長 | 研修管理委員 |
| 麓 祥一 | 大分中村病院 | 外科部長 | 研修管理委員 |
| 安部 学朗 | 大分中村病院 | 総合診療科副部長 | 研修管理委員 |
| 岐部 千鶴 | 大分中村病院 | 看護部長 | 研修管理委員 |
| 本室 貴子 | 大分中村病院 | 薬剤部長 | 研修管理委員 |
| 梅野 裕昭 | 大分中村病院 | 事務部長 | 事務部門責任者 |

研修プログラムに関する指導医・上級医

2025年4月1日現在

| 担当分野 | 氏名 | 所属 | 臨床 経験 年数 | 資格 | 備考 |
|-------|--------|-------------------------------|----------------|--|--------------------------------|
| 整形外科 | 中村 太郎 | 大分中村病院 | 40 | 医学博士、日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本障がい者スポーツ協会 障がい者スポーツ医、日本体育協会認定スポーツドクター、日本医師会認定 産業医、大分大学医学部臨床教授、日本障害者スポーツ協会医学委員、アジアパラリンピック委員会医学委員、大分国際車いすマラソン大会医学委員（ドーピングコントロール オフィサー）、フェスピック連盟医学委員、執行委員、大分県立看護科学大学臨床教授 | 理事長 |
| 整形外科 | 七森 和久 | 大分中村病院 | 41 | 日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、医師臨床指導医講習会受講 | 院長 |
| 整形外科 | 園田 広典 | 大分中村病院 | 31 | 日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医、第6回大分県医師臨床指導医講習会受講、平成29年度プログラム責任者養成講習会受講 | 臨床研修 管理委員長・ プログラム 責任者 |
| 地域医療 | 小野 隆宏 | ハートクリニック | | | |
| 地域医療 | 大屋 謙 | 佐賀関病院 | | | |
| 地域医療 | 松永 研一 | えとう内科病院 | | | |
| 産科婦人科 | 河野康志 他 | 大分大学医学部 | | | |
| 産科婦人科 | 大神 達寛 | 大分県立病院 | | | |
| 産科婦人科 | 石井 照和 | いしい 産婦人科醫院 | | | |
| 産科婦人科 | 本多 和夫 | あおい産婦人科 | | | |
| 産科婦人科 | 穴見 愛 | 別府医療センター | | | |
| 小児科 | 久我 修二 | 大分こども病院 | | | |
| 精神科 | 塩月 一平 | 大分県立病院 | | | |
| 精神科 | 衛藤 龍 | 衛藤病院 | | | |
| 精神科 | 山本 正史 | 鶴見台病院 | | | |
| 病理 | 小山 雄三 | 大分市医師会立 アルメイダ病院 臨床検査副部長 | | | |
| 地域保健 | 神鳥 澄男 | 社会福祉法人 太陽の家 身体障がい者支援施設ゆうわ | | | |
| 地域保健 | 藤内 修二 | 東部保健所 | | | |
| 整形外科 | 田北 親寛 | 大分中村病院 | 31 | 医学博士、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本骨粗鬆症学会認定医、大分県医師臨床指導医講習会受講 | 副院長 |

| 担当分野 | 氏名 | 所属 | 臨床 経験 年数 | 資格 | 備考 |
|-------|-------|--------|----------------|---|-----|
| 呼吸器内科 | 重永 武彦 | 大分中村病院 | 41 | 日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、ICD | |
| 産婦人科 | 西田 純一 | 大分中村病院 | 40 | 産婦人科専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、九州大学病院臨床指導医講習会受講 | |
| 形成外科 | 亀渕 克彦 | 大分中村病院 | 38 | 日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、日本熱傷学会専門医、日本手外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医、日本登山医学会認定国内山岳医、VHJ 機構指導医養成講座受講 | 副院長 |
| 糖尿病内科 | 鎗水 浩治 | 大分中村病院 | 39 | 医学博士、日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、研修指導医、日本医師認定産業医、第9回大分県医師臨床研修指導医講習会、プログラム責任者講習会受講 | |
| 循環器内科 | 渡邊 充 | 大分中村病院 | 35 | 日本内科学会認定医、総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、第2回国際医療福祉大学高邦会グループ初期臨床指導医養成講座受講 | 副院長 |
| 脳神経外科 | 瀧本 理 | 大分中村病院 | 35 | 日本脳神経外科学会専門医、日本救急医学会救急科専門医、第2回国際医療福祉大学高邦会グループ初期臨床指導医養成講座受講 | |
| 消化器内科 | 石飛 裕和 | 大分中村病院 | 32 | 医師指導医講習会受講 | |
| 泌尿器科 | 平田 裕二 | 大分中村病院 | 35 | 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医、日本透析医学会透析専門医・指導医、医師臨床研修指導医養成講習会受講 | |
| 麻酔科 | 河邊 聡 | 大分中村病院 | 29 | 日本麻酔科学会専門医、日本麻酔科学会認定医、日本麻酔科学会認定麻酔指導医 | |
| 麻酔科 | 永澤 一郎 | 大分中村病院 | 41 | 日本麻酔科学会専門医、指導医、佐賀県医師臨床運営議会第7回指導医育成講座受講 | |
| 整形外科 | 立山 正道 | 大分中村病院 | 28 | 日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、第13回大分県医師臨床研修指導医講習会受講 | |
| 消化器内科 | 松成 修 | 大分中村病院 | 22 | 日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本ヘリコバクター学会感染症認定医、日本消化管学会暫定胃腸科指導医、日本 DAMT 隊員、日本救急医学会 ICLS コースディレクター、第11回大分県医師臨床研修指導医講習会受講、日本医師会認定産業医、総合内科専門医、日本航空医療医師指導者、救急科専門認定医、腹部救急認定、日本消化器内視鏡学会指導医、看護師特定行為指導者講習修了 | |

| 担当分野 | 氏名 | 所属 | 臨床 経験 年数 | 資格 | 備考 |
|------------|--------|--------|----------------|--|----|
| 形成外科 | 芳原 聖司 | 大分中村病院 | 24 | 日本形成外科学会専門医、第3回長崎大学病院群臨床研修指導医講習会受講 | |
| 外科 | 麓 祥一 | 大分中村病院 | 26 | 医学博士、大分県立看護科学大学臨床教授、大分大学医学部非常勤講師、大分大学大学院非常勤講師、大分大学医学部分子病理学講座客員研究員、日本緩和医療学会代議員、日本食道学会選挙評議員、日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医、消化器がん外科治療認定医、日本食道学会食道科認定医、日本緩和医療学会緩和医療認定医、日本サイコロロジー学会認定CSTファシリテーター、日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了、第10回大分県医師臨床指導医講習会受講 | |
| リハビリテーション科 | 藤木 稔 | 大分中村病院 | 40 | 医学博士、日本脳神経外科学会専門医 | |
| 産婦人科 | 吉武 朋子 | 大分中村病院 | 28 | 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医、日本産婦人科学会認定医、マンモグラフィ読影認定医 | |
| 産婦人科 | 佐藤 祐輔 | 大分中村病院 | 7 | 産婦人科専門医 | |
| 循環器内科 | 増田 季美子 | 大分中村病院 | 20 | 医学博士、日本内科学会認定医、総合内科専門医 | |
| 総合診療内科 | 安部 学朗 | 大分中村病院 | 20 | 日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医、日本プライマリケア認定医、第16回大分県臨床研修指導者講習会受講 | |
| 麻酔科 | 小野 千晶 | 大分中村病院 | 18 | 日本麻酔科学会認定医、日本麻酔科学会専門医、日本麻酔学会指導医 | |
| 整形外科 | 阿部 知佳 | 大分中村病院 | 19 | 整形外科専門医 | |
| 産婦人科 | 高尾 圭純 | 大分中村病院 | 7 | 日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本がん治療認定貴校がん治療専門医 | |
| 消化器外科 | 河村 昌寛 | 大分中村病院 | 12 | 日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医 | |
| 形成外科 | 吉村 静香 | 大分中村病院 | 15 | 日本形成外科学会専門医 | |
| 消化器外科 | 荒金 佑典 | 大分中村病院 | 7 | 日本外科学会専門医 | |
| 整形外科 | 池邊 哲郎 | 大分中村病院 | 3 | | |
| 循環器内科 | 坂本 謙 | 大分中村病院 | 3 | | |

(順不同)

VII 研修医の募集・処遇等

| 1. 研修医の処遇 | | |
|-------------------|---|---------------------------------|
| 処遇の適用 | 病院独自の処遇とする | |
| 常勤・非常勤の別 | 常勤 | |
| 研修手当 | 1年次の支給額(税込) 基本手当/月(500,200円) | 2年次の支給額(税込) 基本手当/月(550,130円) |
| | 時間外手当 | 有 |
| | 休日手当 | 有 |
| 勤務時間 | 基本的な勤務時間 | 8:30～17:30 休憩時間 60分 |
| | 時間外勤務の有無 | 有 |
| 休暇 | 有給休暇 | 1年次:10日/2年次:11日 |
| | その他の休暇 | 夏季・冬季休暇、年末年始休暇、慶弔休暇 |
| 宿直 | (回数)約3回/月 | |
| 研修医の宿舎 | 有 | |
| 社会保険・労働保険 | 公的医療保険 | 健康保険 |
| | 公的年金保険 | 厚生年金、病院企業年金基金 |
| | 労働者災害補償保険法の適用 | 有 |
| 健康管理 | 健康診断(年2回) | |
| 医師賠償責任保険の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・病院において加入する ・個人加入(任意) | |
| 外部の研修活動 | 学会、研究会等への参加 | 可(院内規定あり) |
| | 学会、研究会等への参加費用支給の有無 | 有(院内規定にあり) |
| アルバイト | 禁止 | |
| 2. 研修医の募集定員 | 1年次:4名/2年次:4名 | |
| 3. 研修医の募集及び採用の方法 | | |
| 研修プログラムに関する問い合わせ先 | 氏名:後藤 美穂(人事課) 電話:097-536-5050(代) FAX:097-573-8030 e-mail:miho-goto@nakamura-hosp.or.jp URL:http://www.nakamura-hosp.or.jp | |
| 資料請求先 | 〒870-0044 大分県大分市舞鶴町1丁目4-1 氏名:後藤 美穂(人事課) 電話:097-536-5050(代) FAX:097-573-8030 e-mail:miho-goto@nakamura-hosp.or.jp URL:https://www.nakamura-hosp.or.jp | |
| 募集方法 | 公募 | |
| 応募必要書類 | 履歴書、卒業(見込み)証明書、採用願書、健康診断証明書 | |
| 選考方法 | 面接、書類審査 | |
| 募集及び選考の時期 | 募集時期 | 4月1日頃から |
| | 選考時期 | 6月1日頃から(随時) |
| マッチング利用の有無 | 有 | |
| 研修医手帳 | 有 | |

基本研修科目の概要

I 内科

研修の基本と特徴

内科全般の疾病にたいして、指導医のもとで研修を行い、疾患を総合的に診療し、必要とされる基本的な診察法、診断と治療に必要な検査手技、治療法の基本などを修得する。疾病の頻度が多い Common Diseases からより重篤な疾患、さらに高齢者の医療、認知症ケアや生活習慣病の予防、終末期医療など、基本的に経験しておくべき基礎疾患、合併症を経験し、その基本を習得する。

さらに、日本専門医機構の基本方針に従った日本内科学会の「内科専門医制度、研修カリキュラム」に沿った研修内容にしたがい、総合内科(一般、高齢者、腫瘍)の研修およびサブスペシャリティ重点研修に視点をおいた研修を行い、初期研修から引き続いてさらに進んだ専門的技能と知識を深め、内科領域の総合的な研修を修得する。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目標として研修する。
2. 原則として、4週単位で以下の診療科グループを選択して研修を行う。
循環器内科 / 消化器内科 / 糖尿病内科 / 総合内科診療科 / 呼吸器内科
*いずれの診療科グループを選択しても、内科全般の疾患を経験することは可能である。
3. 選択研修では、大分大学医学部附属病院での「たすきがけ研修」をすることが出来る(1~3か月間)。
4. 一般内科外来を並行研修する。

II 外科

研修の基本と特徴

臨床医として必要な外科領域における知識および技能を実地に研修し、外科医療における患者と医師との間の人間関係について理解を深める。医師は、将来どの分野の医療を専攻するにせよ、外科全般にわたる基本的な臨床知識を持っておく必要がある。特に、正確かつ迅速な対応を必要とする全身呼吸循環管理、手術前後の患者管理を経験し、医療行為の基礎を修得するなど、基本的な外科知識、技術、態度を身に付ける研修を行う。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、婦人科のうち1科以上を選択し8週以上研修する。また、加えて麻酔科研修は4週以上必須とする。
3. 入院患者の担当医の一員として診療に従事し、患者の病態、診断、検査、手術、術後管理、治療を経験し、カルテに記載する。
4. 皮膚切開、縫合、結紮などの技術、輸液療法、採血法、血管確保などの基本的技能を修得する。
5. 清潔、不潔の概念、手洗い法、消毒法、周術期感染、術後感染などの基礎的概念を実践する。

6. 外科的救急患者の対応、処置を経験する。
7. 術後癌患者の終末期医療・緩和医療を経験する。
8. 選択研修では、大分大学医学部附属病院での「たすきがけ研修」をすることが出来る(4～12 週)。

Ⅲ 救急医療

研修の基本と特徴

救急研修は、心肺機能停止患者、緊急治療を要する患者などの初期治療、重症度と緊急度の評価などができるような基本的な対応、処置、治療等の知識と技術とを修得する。バイタルサインの把握、ショックの診断と治療、一次・二次救命処置(ACLS : Advanced Cardiovascular Life Support)を修得することを目標に、内科、外科研修を問わず、本院での研修期間は指導医のもとで救命救急室(ER : Emergency Room)での初期対応を経験する。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 研修医は、所属診療科の指導医のもとに救急医療初期研修に参加する。
3. 救急部の研修は救命救急室(ER)で行う。当院への救急搬送患者は月間 170 名程度であり、プライマリーケアに必要な救急対応の基本的知識と技術を身につける。
4. 当院の ER に搬送された患者に対して、各所属診療科の研修と平行して救急研修に携わる。救急部の研修期間(12 週以上)は、最初、ER 外来の研修から開始し、1 年目に 4 週以上の日程で集中的に ER での研修に専念する。
5. 搬送患者の初期の病態の把握、緊急度の評価、気道確保、人工呼吸、心マッサージ、ショックの治療等ができるような一次救命処置(BLS : Basic Life Support)を修得し、二次救命処置(ACLS)に対する初期治療も出来るようにする。
6. 救急患者に対しては、各診療科の医師は、横断的に協力して対応する。

一般目標

緊急を要する病態や疾患、内科救急及び外傷等に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。心肺停止、ショック、意識障害、急性循環不全・呼吸不全、急性腹症、急性腎不全、脳血管障害、多発外傷、熱傷、急性中毒などの疾病、病態を経験する。

経験目標

- 【1 年目】
- ・ 救急診療の基本的事項を理解する。
 - ・ 必要な検査を指示し、異常所見を指摘できる。
 - ・ 病態の把握(身体所見、バイタルサイン、重症度と緊急度)
 - ・ 二次救命処置(ACLS : Advanced Cardiovascular Life Support)
 - ・ 専門医への適切なコンサルテーション

- 【2年目】 ・ 救急診療に必要な手技を身につける。
- ・ 気道確保、気管内挿管、人工呼吸、心マッサージ、除細動、静脈路確保・中心静脈路確保、緊急薬剤の使用、採血(静脈、動脈)、経鼻胃管の挿入、圧迫止血、局所麻酔、創処理・創処置(消毒・縫合)、緊急輸血

IV 小児科

研修の基本と特徴

小児における正常発達、発育、一般的疾患を理解し、小児科医療、家庭医として必要な初期の知識と技術を習得する。患児の両親との良好なコミュニケーションをとることができるのを基本とする。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 研修は、協力型臨床研修病院「大分こども病院」にて4週行う。
3. 指導医のもとに、病歴を取り、各年齢に応じた診察を行い、発熱、けいれん、嘔吐、下痢、不活発、せき、発疹などの症状から鑑別診断と治療を修得する。
4. 乳幼児、学童、思春期の子供、および保護者との適切なコミュニケーションと対応を修得する。
5. 指導医のもとに、注射、採血、処方、処置を経験する。

V 産婦人科

研修の基本と特徴

正常な妊娠、分娩、産褥の臨床知識とともに、異常妊娠、異常分娩の基本的な知識を修得する。一連の女性生殖器疾患を理解し、それらの診断と治療を学び、医師として必要な基本的な姿勢を修得する。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 研修は、臨床研修病院の「大分大学医学部産科婦人科」「大分県立病院産科婦人科」「別府医療センター」または、臨床研修協力施設の「いしい産婦人科醫院」「あおい産婦人科」にて行う。
3. 指導医のもと、外来および病棟での日常の医療に参加し、正常妊娠の診断、妊娠・分娩の進行の把握、分娩の立会い、産褥の管理、異常分娩の診断、緊急的処置、薬物療法、婦人科疾患の診断治療などを学ぶ。

VI 精神科

研修の基本と特徴

精神科における診療の基本を学び、代表的な疾患の理解と、身体疾患に伴う心のケア、精神症状に対する対処方法などを修得する。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 研修は、協力型臨床研修病院である「帆秋病院」「衛藤病院」「大分県立病院」、臨床研修協力施設「鶴見台病院」にて行う。
3. 指導医のもとに、外来、病棟での症状精神病、統合失調症、躁うつ病（気分障害）、アルコール依存症などを診察し、診断、治療法を修得する。

VII 地域医療

研修の基本と特徴

患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 研修は、臨床研修協力施設「佐賀関病院」、「ハートクリニック」、「えとう内科病院」において、患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療について理解し、実践する。また医療連携についても理解を深める。

VIII 保健・医療行政

研修の基本と特徴

多くの医療に携わる専門職によって担われている地域保健・福祉の活動に対して、医師として全人的に自ら実践することにより、その役割を理解するのが基本である。健康管理、疾病予防、リハビリテーションなど、予防医療から福祉サービスまでの一連の業務を理解する。

研修方法

1. 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
2. 東部保健所において、保健所の業務に参加し、役割を理解する。
3. 社会福祉法人太陽の家『身体障がい者支援施設 ゆうわ』において、身体障がい者の社会復帰、社会福祉施設の役割を理解し実践する。
4. 『介護老人保健施設 健寿荘』において、自らが介護医療を実践し理解する。

内科

研修と概要

内科全般の診療に必要とされる医療面接、身体診察法、臨床検査の結果の解釈、超音波検査、内視鏡検査、等々の基本的な診断技術、推測される疾病の診断およびその治療法を修得する。頻度が多い Common Diseases からより重篤な疾患、さらに高齢者の医療、生活習慣病の予防、認知症のケア等々、基本的に経験しておくべき基礎疾患、合併症を経験し、その基本を習得する。

さらに、日本内科学会の「内科専門医制度、研修カリキュラム」に沿った研修内容にしたがい、総合内科（一般、高齢者、腫瘍）の研修およびサブスペシャリティ重点研修に視点をおいて研修を行う。初期研修から引き続いてより踏み込んだ専門的スキルと知識を深め、内科領域の総合的な研修を修得することができる。

一般目標と経験目標

① 基本的事項

1. 胸部の打診、聴診などの身体所見を取る。
2. 胸部単純 X 線写真の読影をする。
3. 胸部 CT 所見を読影する。
4. 胸腔穿刺、胸水所見の解釈、および胸腔ドレナージの管理を経験する。
5. 気管支鏡の前処置を行い、気管支鏡を気管分岐部まで挿入し観察する。
6. 一人でバック呼吸を行う。
7. 気管内挿管を経験する。

② 疾病・検査・治療

1. 検体のグラム染色等の塗抹鏡検を行い、感染性疾患の判断をする。
2. 抗菌薬の使い分けを行う。
3. 喀痰検体の採り方を経験する。
4. 発熱症例の鑑別診断をする。
5. 肺癌患者および家族に病状を説明し、同意を得る。
6. 内科医の範囲で癌の疼痛コントロールを経験する。
7. 気管支喘息発作の治療を経験する。
8. スパイログラムの結果の解釈をする。
9. 血液ガス検査の結果を解釈し、緊急の対応をする。
10. 急性呼吸不全の患者の人工呼吸を経験する。
11. 在宅酸素療法の適応の判断をする。
12. 体位ドレナージを実施する。

循環器内科

研修指導医と概要

急性心筋梗塞、心不全、心筋症、不整脈、心臓弁膜症、睡眠時無呼吸症候群、高血圧症、閉塞性動脈硬化症などの診断、検査、治療を行っている。PTCA/ステント留置などの内科的救急処置は平均 10 例/月、心臓カテーテル検査は平均 20 例/月である。指導医のもとで救急搬送患者の検査、診断、治療が経験できる。

一般目標と経験目標

1. 患者の病歴および理学所見をとる。
2. 頻脈、息切れ、胸痛などの病態生理を理解し、対応する。
3. 心電図を正しく記録し、その結果を解釈する。
4. 心エコー図の適応とその結果を解釈する。
5. 心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査、心臓核医学検査、トレッドミル運動負荷心電図、ホルター心電図の検査に立ちあい結果を正しく理解する。
6. 心不全、失神発作、胸痛発作、ショックなどの救急を要する病態への初期対応をする。
7. 救急時に必要な処置(直流除細動、スワンガンツカテーテル挿入、心膜穿刺、IABP)に立ちあい理解する。
8. 降圧薬、強心薬、昇圧薬、硝酸薬、抗不整脈薬、抗凝固薬、抗血小板薬などの循環器治療薬を正しく理解し、使用する。

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 循環器内科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------|------------|-----|---------------------------|-------|-------------|---------------|
| 午前 | 外来/ 総回診 | 外来 | 外来/回診 | 外来/回診 | 外来 | 外来/ 心エコー検査 |
| 午後 | 外来 | 心カテ | 心カテ/ 心臓 CT/ カンファレンス | 外来 | 心エコー/ 検査 | — |

消化器内科

研修指導医と概要

内科の中でも頻度が多い消化器系疾患について、画像診断、内視鏡による診断・治療・処置などを行っている。

一般目標と経験目標

1. 急性期患者の初期対応を経験する。
2. 消化器疾患の X 線像、CT および内視鏡写真、エコー検査から異常所見を指摘し診断する。
3. 消化器疾患に対する薬物療法と栄養管理を実施する。
4. 消化管内視鏡の実施と観察を指導医のもとで行う。

糖尿病内科

研修指導医と概要

生活習慣病といわれる高血圧、高脂血症の治療、糖尿病患者の全身的な評価、管理を行っている。

一般目標と経験目標

1. 糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 糖尿病内科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------|----|----|----|----|----|-----------------------|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 病棟 | 外来 | 外来 (第1土曜のみ) ・病棟 |
| 午後 | 病棟 | 病棟 | 病棟 | 病棟 | 病棟 | — |

外科

研修指導医と概要

消化器系炎症・悪性疾患、外傷などに対する外科治療、抗癌剤治療、緩和医療を行なっている。また、外科治療においては、腹腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に取り入れている。

【手術内容】

1. 胃切除・全摘術(腹腔鏡手術を含む)
2. 肝・胆・膵疾患(腹腔鏡手術を含む)
小腸・大腸疾患(腹腔鏡手術を含む)
鼠径・大腿・閉鎖孔・腹壁癒痕ヘルニア手術
血管外科手術
乳腺疾患

一般目標

ACLS、救急処置、術前・術後患者の管理

経験目標

超音波診断、一般画像診断、外科手術(消化器全般・血管・乳腺疾患等)、癌化学療法、緩和医

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 外科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|--------------|-------|-------|---------------------------|-------|-------|
| 午前 | 外来/回診 /手術 | 外来/回診 | 外来/回診 | 外来(血管外科 もあり)/ 回診/手術 | 外来/回診 | 外来/回診 |
| 午後 | 手術 | 回診 | 回診 | 外来(血管外 科)/手術 | 回診 | — |

整形外科

研修指導医と概要

入院患者数は約 100 人／日、外来患者数は約 70 人／日、年間手術数は約 700 例を数える。救急病院という特徴上、骨折脱臼といった患者が多く、手術数の約 6 割を占める。関節・脊椎の慢性疾患や、スポーツ外傷にも重点を置いている。

一般目標

各種整形外科疾患患者を受け持ち、疾患の理解、整形外科の基本知識や手技、および医師としての基本的姿勢を習得する。

経験目標

- 【1 年目】
 - ・ 骨、関節、筋、神経などの基礎的知識、各種疾患の基礎知識の習得。
 - ・ 整形外科的診察、および局麻、関注、ブロックなどの基本的手技の習得。
 - ・ X 線、CT、MRI などの読影。
- 【2 年目】
 - ・ 簡単な外傷の処置、縫合。ギプス、直達牽引、腰椎麻酔などの手技の習得。
 - ・ 診断から治療計画の立案。手術の助手として参加、術前術後の管理を実行。
 - ・ 条件によっては、上級医とともに主治医として治療にあたることもある。

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 整形外科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 午前 | 外来/病棟 | 外来/病棟 | 外来/病棟 | 外来/病棟 | 外来/病棟 | 外来/病棟 |
| 午後 | 手術/病棟 | 手術/病棟 | 手術/病棟 | 手術/病棟 | 手術 | — |

脳神経外科

研修指導医と概要

当科は徳島大学脳神経外科より医師が派遣されている。

一般目標

臨床医師として必要な脳疾患の理解を深める為に、基本的な脳神経外科的知識、手技、医師としての態度を習得し、日常よく遭遇する脳神経外科疾患の診断・治療を経験する。

経験目標

- 【1 年目】
 - ・ 神経学的所見を正確に取り、診察できる。
 - ・ 主な脳神経外科疾患の CT、MR、脳血管写の所見を読み、診断できる。
- 【2 年目】
 - ・ 神経学的所見を正確に取り、診察できる。
 - ・ 主な脳神経外科疾患の X-P、CT、MR、脳血管写、脳波等の所見を読み、診断できる。
 - ・ 頻度の高い救急脳疾患の診断、外来処置ができ、治療方針をたてることができる。
 - ・ 脳血管撮影、腰椎穿刺、気管切開、脳外科救急患者の外来処置等の適応、合併症を理解し、介助ができる。

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 脳神経外科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------|----|-------|-------|----|-------|----|
| 午前 | 回診 | 外来/回診 | 外来/回診 | 回診 | 外来/回診 | 回診 |
| 午後 | — | — | — | — | — | — |

形成外科

研修指導医と概要

当科は、長崎大学形成外科より医師が派遣されており診療を行っている。部長は日本形成外科学会・日本熱傷学会および手外科学会の専門医でもある。救急病院であるため外傷が多く、特に再接着術を含めた手の外科手術が多い。また、顔面外傷、熱傷、難治性潰瘍や褥瘡の治療も多く行っている。特殊な先天奇形、顔面骨骨切り、血管柄付き遊離移植術等は長崎大学や関連施設に応援を依頼することもある。

一般目標

基本的な形成外科的知識、手技、医師としての態度を習得する。日常よく遭遇する形成外科疾患、外傷の診断、治療を経験し、治療の流れを把握する。

経験目標

- 【1年目】
- ・ 形成外科的診療法・記載法
 - ・ 手術前・後の管理
 - ・ 創処理
 - ・ 簡単なスプリント及びギプス固定法
 - ・ 形成外科的外傷の救急処置・診断
 - ・ 形成外科諸手術の助手
 - ・ 形成外科的縫合法(外傷や全層植皮の恵皮部等を利用して)
 - ・ 小範囲の分層植皮の採取法を修練する。
- 【2年目】
- ・ 顔面以外の部位の植皮術
 - ・ 小範囲の瘢痕拘縮形成術
 - ・ 簡単な皮弁作成
 - ・ 簡単な顔面の手術あるいは手の外科手術などの手術において部分的な執刀者となる。

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 形成外科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------|-------|-------|-------|----------------------|-----|-------|
| 午前 | 外来/回診 | 外来/回診 | 外来/回診 | 外来/回診 | 外来 | 外来/回診 |
| 午後 | 手術等 | 手術等 | 手術等 | 総回診 手外科回診 褥瘡回診 | 手術等 | — |

泌尿器科

研修指導医と概要

年間約 2,000 例の受け入れがある ER を持つ当院では、急性腹症や労務災害・交通事故・高所転落による肋骨骨盤骨折を伴った腎尿路損傷の患者さんが多い。高齢者の排尿管理、女性尿失禁、勃起不全 (ED) の各外来があり、今後の超高齢化時代に対応している。頻尿と認知症鑑別判断の関連を追及している。

一般目標

目の前の患者さんの問題点を把握し、その解決法をただちに見出せる診療能力を蓄え、医療チームの一翼を担えるよう習練経験する。

経験目標

【1 年目】 頻度の多い一般泌尿器患者への適切な処置ができる

1. 腎尿路、骨盤内臓器の解剖・生理の理解
2. 愛護的な患者対応と病歴の正確な聴取
3. 腹部外陰部身体所見・直腸診の実施と評価
4. 尿排出・蓄尿障害 (尿失禁) の鑑別・骨盤底筋体操指導
5. 検尿 (定性・沈査) の実施とその評価
6. 膀胱炎・腎盂腎炎の初期診断と治療
7. 尿閉の診断と導尿カテーテルの使用・膀胱洗浄
8. 腎盂造影、腹部超音波断層の実施、CT 像の読影
9. 急性腹症・尿管結石の診断・救急処置
10. 交通事故・高所転落から腎尿路外傷を診断
11. 食事を含んだ生活指導

【2 年目】 より専門的泌尿器疾患への診断介助ができる

1. 水・電解質、酸塩基平衡・勃起機能の理解
2. 内視鏡 (尿道膀胱鏡) の実施
3. 尿力学的検査 (尿流速・尿流率・残尿測定)、四肢腱反射
4. 腰椎・仙骨硬膜外麻酔の実施管理
5. 膀胱・前立腺生検
6. 膀胱尿道造影、逆行性腎盂造影、レノグラム、骨シンチグラフィ
7. 周術期のカンファレンスと管理
8. 経尿道的前立腺・膀胱腫瘍切除手術・尿管ステント留置術の助手
9. 透視・超音波下手術 (経皮的腎瘻・膀胱瘻) の介助
10. 簡単な泌尿器科手術の執刀

婦人科

研修指導医と概要

婦人科良性疾患全般を診療対象とし、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、手術を要する不妊治療、子宮内膜病変、骨盤臓器脱、子宮頸部上皮内病変などの低侵襲外科的治療を主に行っている。年間約 400 例の手術を行っており、そのうち腹腔鏡手術は約 300 例、子宮鏡手術は約 80 例で低侵襲手術を目的とした紹介患者を県内外より受け入れている。婦人科救急医療は行っていない。

2021 年度 手術内容

| | |
|-------------|-------|
| 腹腔鏡下子宮全摘 | 119 例 |
| 腹腔鏡下筋腫核出 | 61 例 |
| 腹腔鏡下子宮内膜症手術 | 38 例 |
| 子宮附属器腫瘍手術 | 77 例 |
| 腹腔鏡下仙骨隆固定術 | 54 例 |

| | |
|--------------|------|
| 子宮鏡下内膜ポリープ切除 | 64 例 |
| 子宮鏡下筋腫核出 | 18 例 |
| 子宮頸部円錐切除 | 22 例 |
| その他 | 47 例 |

一般目標

基本的な婦人科疾患の知識を習得するとともに、婦人科診察を通して患者とのコミュニケーションの重要性を理解する。

経験目標

- ・ 患者の社会的背景を理解した上での診療ができる
- ・ プライバシーへの配慮が十分にできる
- ・ 麻酔下での診察、超音波検査の実施により基本的な婦人科診察の手技を習得する
- ・ 周術期の管理ができる
- ・ 基本的な画像診断を理解し、診断できる
- ・ 基本的な病理組織標本の診断ができる
- ・ 主な婦人科疾患の理解ができる

週間スケジュール(※スケジュール変更はある)

| 婦人科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------|----|----|----|----|----|---|
| 午前 8:30-12:30 | 外来 | 手術 | 外来 | 手術 | 手術 | — |
| 午後 12:30-17:30 | 外来 | 手術 | 外来 | 手術 | 手術 | — |

麻酔科

研修指導医と概要

研修指導医：河邊 聡(麻酔科部長・日本麻酔科学会認定麻酔科専門医)

【研修概要】

選択必修である麻酔科研修は、研修 1 年目に 1 か月間行う。手術麻酔の症例経験を通して、重症患者の状態把握および初期対応のための基本的知識・手技を確実に身につける。あわせて臨床麻酔の理論と実際を理解する。

一般目標

将来の専攻分野にかかわらず、患者の危機的病態への適切な初期対応ができる臨床医になるために、周術期管理を通して基本的な知識、技能、態度を身につける。

経験目標

| | |
|-------------------|---|
| 1. 患者-医師関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・手術で麻酔を受ける患者・家族抱く不安を認識できる。 ・守秘義務を果し、プライバシーへの配慮ができる。 |
| 2. チーム医療 | <ul style="list-style-type: none"> ・周術期管理チームの一員として、他の医療従事者との良好なコミュニケーションができる。 ・指導医に適切に報告・相談ができる。 |
| 3. 問題対応能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・周術期患者の状態を情報収集し、整理して、麻酔管理上の問題点を列挙できる。 |
| 4. 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・手術室における安全確認の考え方(感染防御を含む)を理解し、実施できる。 |
| 5. 症例提示 | <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔前回診で収集した情報を整理したうえで、麻酔管理上の問題点とともに指導医に適切に報告できる。 |
| 6. 医療面接 | <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔前回診を通して、患者の人となりや社会背景も含めた、麻酔管理に必要な情報収集と記録ができる。 ・患者・家族から信頼を得られるような接遇を身につける。 ・麻酔に関するインフォームド・コンセントおよび術前指示・指導を実施できる。 |
| 7. 基本的身体診察法と病態の把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインの正確な把握ができる ・麻酔管理に必要な基本的理学所見をとれる。(気道閉塞に伴う胸郭の動き、頰椎の可動性、開口障害有無の把握と挿管困難予想、片肺・食道挿管の検知を含む) ・上記をもとに、周術期患者の病態の把握ができる。(循環血液量、気道と換気など) |
| 8. 基本的手技 | <ul style="list-style-type: none"> ・静脈血・動脈血の採血を実施できる。 ・導尿法を実施できる。 ・胃管の挿入を実施できる。 ・気道確保を実施できる。(経鼻・経口エアウェイも適切に使用できる) ・マスクバックを用いた人工呼吸を実施できる。 ・気管挿管を実施できる。 |
| 9. 基本的治療法 | <ul style="list-style-type: none"> ・術前、術中、術後の状態を考慮した輸液を実施できる。 ・輸血(成分輸血を含む)の効果と副作用について理解し、輸血を実施できる。 ・局所麻酔薬の種類と濃度別の使い方を述べることができる。 ・術中に使用する鎮静薬の種類と使い方を述べることができる。 ・術中および術後に使用する鎮痛薬(麻薬・NSAIDSを含む)の種類と使い方を述べることができる。 ・アナフィラキシー/アナフィラキシー様反応発生の覚知、および治療法を述べることができる。 |
| 10. 医療記録 | <ul style="list-style-type: none"> ・診療録および麻酔記録を遅滞なく、正確に記載することができる。 |
| 11. 診療計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔前回診で収集した整理した情報と麻酔管理上の問題点を考慮した麻酔・全身管理計画を指導医と協議できる。 ・患者と施行術式に適した術後鎮痛計画を指導医と協議できる。 |

LS(修得の方法)

1. 非実地修練(off the job training)

- ・ 知識の習得: 麻酔科テキスト(ex.麻酔科研修チェックノート(讃岐美智義著)、過去の麻酔記録等による自己学習。
- ・ 指導医による“口移し”講義と討論。
- ・ 手技の習得: 気道管理トレーナー。

2. 実地修練(on the job training)

指導医指導の下、当院手術室で行われる麻酔科管理症例の周術期管理を担当する。

- ・ 麻酔前回診を通して、病歴・検査データ等の情報収集、患者・家族面接、診察、麻酔説明、術前指示、指導等を行う。
- ・ 手術麻酔管理を通して、麻酔科研修における基本的診察法、病態の把握、基本的手技、基本的治療法を経験し、修得する。

教育関連スケジュール

| 麻酔科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---|
| 午前 8:30-12:30 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | — |
| 午後 12:30-17:30 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | 術前・術後 回診 手術麻酔 | — |

臨床研修の到達目標、達成度評価 (医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版一部抜粋)

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
3. 人間性の尊重患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会 と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の 発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。)を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

II 実務研修の方略、達成度評価

経験すべき症候 -29症候-

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

- ①ショック ②体重減少・るい瘦 ③発疹 ④黄疸 ⑤発熱 ⑥もの忘れ ⑦頭痛 ⑧めまい ⑨意識障害または失神
- ⑩けいれん発作 ⑪視力障害 ⑫胸痛 ⑬心停止 ⑭呼吸困難 ⑮吐血または喀血⑯下血または血便
- ⑰嘔気または嘔吐 ⑱腹痛 ⑲便通異常(下痢・便秘) ⑳熱傷または外傷 ㉑腰または背部痛 ㉒関節痛
- ㉓運動麻痺または筋力低下 ㉔排尿障害(尿失禁・排尿困難) ㉕興奮またはせん妄 ㉖抑うつ
- ㉗成長・発達の障害 ㉘妊娠・出産 ㉙終末期の症候

経験すべき疾病・病態 -26疾病・病態-

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

- ①脳血管障害 ②認知症 ③急性冠症候群 ④心不全 ⑤大動脈瘤 ⑥高血圧 ⑦肺癌 ⑧肺炎
- ⑨急性上気道炎 ⑩気管支喘息 ⑪慢性閉塞性肺疾患(COPD) ⑫急性胃腸炎 ⑬胃癌 ⑭消化性潰瘍
- ⑮肝炎または肝硬変 ⑯胆石症 ⑰大腸癌 ⑱腎盂腎炎 ⑲尿路結石 ⑳腎不全 ㉑高エネルギー外傷または骨折
- ㉒糖尿病 ㉓脂質異常症 ㉔うつ病 ㉕統合失調症 ㉖依存症 ※(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

※経験できなかった疾病については座学で代替することができる

実務研修の確認

研修を行ったことの確認は、日常診療において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むこと。

- ① 研修期間中に全て経験するよう求められている必須項目である。
- ② 病歴要約とは、日常業務において作成する外来または入院患者の医療記録を要約したものであり
具体的には退院時要約、診療情報提供書、患者申し送りサマリー、転科サマリー、週間サマリー等の利用を想定しており、改めて提出用レポートを書く必要はない。研修を行った事実の確認を行うため日常業務において作成する病歴要約を提出する。(コピーを提出すること)
- ③ 病歴要約には、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むことが必要である。
- ④ 病歴要約に記載された患者氏名、患者ID番号等は同定不可能とした上で記録を残す。
- ⑤ 「経験すべき疾病・病態」の中の少なくとも1症例は、外科手術に至った症例を選択し、病歴要約には必ず手術要約を含めることが必要である。

その他(経験すべき診察法・検査・手技等)

1. 医療面接

患者の身体に関わる情報だけでなく、患者自身の考え方、意向、解釈モデル等について傾聴し、家族をも含む心理社会的側面、プライバシーにも配慮する。病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー等)を聴取し、診療録に記載する。

2. 身体診察

病歴情報に基づいて、適切な診察手技(視診、触診、打診、聴診等)を用いて、全身と局所の診察を速やかに行う。このプロセスで、患者に苦痛を強いたり傷害をもたらしたりすることのないよう、そして倫理面にも十分な配慮をする必要がある。

3. 臨床推論

病歴情報と身体所見に基づいて、行うべき検査や治療を決定する。また、見落とすと死につながるいわゆるKiller diseaseを確実に診断できる。

4. 臨床手技

以下指導医とともに行うこと

- ①気道確保 ②人工呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気を含む。)
- ③胸骨圧迫
- ④圧迫止血法 ⑤包帯法 ⑥採血法(静脈血、動脈血)
- ⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)
- ⑧腰椎穿刺
- ⑨穿刺法(胸腔、腹腔)
- ⑩導尿法 ⑪ドレーン・チューブ類の管理 ⑫胃管の挿入と管理
- ⑬局所麻酔法 ⑭創部消毒とガーゼ交換 ⑮簡単な切開・排膿 ⑯皮膚縫合
- ⑰軽度の外傷・熱傷の処置 ⑱気管挿管 ⑲除細動等の臨床手技を身に付ける。

5. 検査手技

血液型判定・交差適合試験、動脈血ガス分析(動脈採血を含む)、心電図の記録、超音波検査等を経験する。



6. 地域包括ケア・社会的視点

症候や疾病・病態の中には、その頻度の高さや社会への人的・経済的負担の大きさから、社会的な視点から理解し対応することがますます重要になってきているものが少なくない。患者個人への対応とともに、社会的な枠組みでの治療や予防の重要性を理解する必要がある。



7. 診療録

日々の診療録(退院時要約を含む)は速やかに記載し、指導医あるいは上級医の指導を受ける。入院患者の退院時要約には、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療方針、教育)、考察等を記載する。退院時要約を症候および疾病・病態の研修を行ったことの確認に用いる場合であって考察の記載欄がない場合、別途、考察を記載した文書の提出と保管を必要とする。なお、研修期間中に、各種診断書(死亡診断書を含む)の作成を必ず経験すること。


臨床研修病院群

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 協力型 臨床研修病院 | 大分大学医学部附属病院 |  |  |
| 住所 | 〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1丁目1番地 | | |
| TEL | 097-586-5205 | | |
| URL | http://www.med.oita-u.ac.jp | | |
| 病床数 | 604床 | | |
| 研修科目 | 内科系、外科系、産科婦人科 | | |
| 研修実績 | 血液内科(1ヶ月)、放射線科(2ヶ月)、神経内科(3ヶ月)、腫瘍内科(1ヶ月)、脳神経外科(2ヶ月)、麻酔科(集中治療部)(3ヶ月)、腎臓内科(2ヶ月) | | |
| 備考 | 4週～12週のたすきがけ研修が可能 | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 協力型 臨床研修病院 | 大分県立病院 |  |  |
| 住所 | 〒870-8511 大分県大分市大字豊饒2丁目8-1 | | |
| TEL | 097-546-7454 | | |
| URL | http://hospital.Pref.oita.jp | | |
| 病床数 | 578床 | | |
| 研修科目 | 産科婦人科、精神科 | | |
| 研修実績 | 2025年度より研修可能(精神科) | | |
| 特徴 | 大分県の代表的な中核病院として、将来の地域医療を担う第一線級の人材を育てていくため、十分に整った環境の中で「基幹型臨床研修病院」として、また「協力型臨床研修病院」として研修医の臨床研修を行っている。 必要な診療に関する基本的な知識及び技能の習得並びに医師としての人間性を涵養し、厚生労働省が設定した「臨床研修の到達目標」の達成を目標としている。 | | |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 協力型 臨床研修病院 | 大分子ども病院 |  |  |
| 住所 | 〒870-0943 大分県大分市大字片島83-7 | | |
| TEL | 097-567-0050 | | |
| URL | http://www.oita-kodomo.jp/ | | |
| 病床数 | 40床 | | |
| 研修科目 | 小児科 | | |
| 研修実績 | 毎年4～8週の研修実績あり | | |
| 特徴 | 小児専門の救急病院として24時間対応で365日、医療を提供している。小児救急医療に活動の中心を置いているが、予防接種や乳児検診にも力を入れている。 | | |


| | | |
|---------------|--|--|
| 協力型 臨床研修病院 | 衛藤病院 |  |
| 住所 | 〒870-1111 大分県大分市上判田3433番地 | |
| TEL | 097-597-0093 | |
| URL | https://www.shinwakai-hosp.com/eto_hosp/ | |
| 病床数 | 232床 | |
| 研修科目 | 精神科、内科、老年精神科 | |
| 研修実績 | 令和7年度より研修開始 | |
| 特徴 | 機能分化した認知症病棟、精神科急性期病棟、精神科療養病棟、そして精神科身体合併症病棟の4病棟232床の入院施設を整え、一般外来のほかに、えとう内科病院において物忘れ外来・ストレス外来を設置し、親和会のネットワークを活かして疾患の早期発見や心の健康相談に取り組んでいる。 | |


| | | |
|---------------|--|---|
| 協力型 臨床研修病院 | 別府医療センター |  |
| 住所 | 〒874-0011大分県別府市内竈1473 | |
| TEL | 0977-67-1111 | |
| URL | https://beppu.hosp.go.jp/ | |
| 病床数 | 483床（一般/443床、精神/40床） | |
| 研修科目 | 産婦人科 | |
| 研修実績 | 令和7年度より研修開始 | |
| 特徴 | 早産期（在胎26週以降）の対応可能なNICU（新生児集中治療室）を備え、妊娠全般、ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群、糖尿病、甲状腺疾患などの合併妊娠、多胎妊娠）などの管理、母体救急搬送の受け入れのできる地域周産期母子医療センターとして機能している。 | |


| | | |
|--------------|--|---|
| 臨床研修 協力施設 | 佐賀関病院 |  |
| 住所 | 〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関750番地の88 | |
| TEL | 097-575-1172 | |
| URL | http://sekiaikai.jp | |
| 病床数 | 90床 | |
| 研修科目 | 地域医療 | |
| 研修実績 | 4週の研修実績あり | |
| 特徴 | 急性期疾患の治療だけでなく、プライマリ・ケアや慢性期疾患の治療、地域リハビリテーションに力を入れ、栄養サポート（NST）活動も盛んで、地域包括医療・ケアの推進や地域貢献を運営理念とした地域に根ざした医療の展開をしている。 | |

| | | | |
|--------------|---|---|---|
| 臨床研修 協力施設 | ハートクリニック |  |  |
| 住所 | 〒870-1136 大分県大分市光吉台17-280 | | |
| TEL | 097-586-5446 | | |
| URL | http://www.heart-cl.com | | |
| 病床数 | 19床 | | |
| 研修科目 | 地域医療 | | |
| 研修実績 | 4週の研修実績あり | | |
| 特徴 | 機能強化型の在宅療養支援診療所として、通院困難な患者を希望により自宅や施設での療養を支援し、現在在宅患者数は180名を数える。在宅ケアではケアマネージャー、介護士、施設スタッフ等多職種連携が重要であり注力している。 | | |

| | | | |
|--------------|---|---|--|
| 臨床研修 協力施設 | いしい産婦人科醫院 |  |  |
| 住所 | 〒870-0952 大分県大分市下郡北3丁目434番地 | | |
| TEL | 097-569-7770 | | |
| URL | http://www.ishii-mfm.jp/ | | |
| 病床数 | 16床 | | |
| 研修科目 | 産科婦人科 | | |
| 研修実績 | 2021年度より研修可能 4週の研修実績あり | | |

| | | |
|--------------|-----------------------------|---|
| 臨床研修 協力施設 | あおい産婦人科 |  |
| 住所 | 〒874-0919 大分県別府市石垣東8丁目2番31号 | |
| TEL | 0977-25-0888 | URL http://oita-aoiclinic.jp/ |
| 病床数 | 14床（うち個室11床） | |
| 研修科目 | 婦人科、産科、内科 | |
| 研修実績 | 令和5年度新規協力施設 | |

| | | |
|--------------|---|---|
| 臨床研修 協力施設 | えとう内科病院 |  |
| 住所 | 〒870-1113 大分県大分市大字中判田1423-1 | |
| TEL | 097-597-6150 | URL https://shinwakai-hosp.com/publics/index/45/ |
| 病床数 | 58床 | |
| 研修科目 | 地域医療 | |
| 研修実績 | 令和3年度新規協力施設 | |
| 特徴 | えとう内科病院58床、介護老人保健施設親和園（一般療養棟50床、専門療養棟45床、通所リハビリテーション、はんだ介護保険支援センター、はんだヘルパーステーション）、事業所内託児所、そしてグループとして社会福祉法人龍和会特別養護老人ホーム寿志の里の運営を通じて地域社会への貢献を目指している。 | |

| | | | |
|--------------|---|--|---|
| 臨床研修 協力施設 | 鶴見台病院 | |  |
| 住所 | 〒874-0838 大分県別府市荘園町66番27号 | | |
| TEL | 0977-22-0336 | | |
| URL | http://www.tsurumidai.or.jp/ | | |
| 病床数 | 140床 | | |
| 研修科目 | 精神科 | | |
| 研修実績 | 令和7年度新規協力施設 | | |
| 特徴 | 平成23年5月に南館新築工事を終え、現在、40床の15:1入院基本料（看護師比率70%以上）、看護補助6対1の精神病棟と精神療養病棟（合計120床）で構成される定床数160床の単科の精神科病院。 | | |

| | | | |
|--------------|--|---|--|
| 臨床研修 協力施設 | 社会福祉法人 太陽の家 身体障がい者支援施設ゆうわ |  |  |
| 住所 | 〒879-1504 大分県速見郡日出町大字大神1402-6 | | |
| TEL | 0977-72-1665 | | |
| URL | https://www.taiyonoie.or.jp/service/yuuwa/ | | |
| 施設概要 | 個室30室、2人部屋25室、機能訓練室、医務室、静養室、多目的室ほか | | |
| 研修科目 | 保健、医療行政 | | |
| 指導者 | 松川 ひとみ | | |
| 特徴 | 日常生活で常時介護を必要とするが、家庭では受け入れることが困難な身体障がい者を対象としている。専門的な知識を持つPT（理学療法士）がリハビリテーションやレクリエーションなどを行い、家庭的な雰囲気の中で明るく楽しい生活ができるよう配慮している。また、ショートステイのための部屋が2床あり、在宅の障がい者の方が利用している。 | | |

| | | | |
|--------------|------------------------------|-----|--------------|
| 臨床研修 協力施設 | 東部保健所 | | |
| 住所 | 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見字下田井14-1 | TEL | 0977-67-2511 |
| 研修科目 | 保健、医療行政 | 指導者 | 糸永 伸能 |

※順不同

病気だけでなく
本気で、
人間と向き合う。



社会医療法人恵愛会
大分中村病院

〒870-0044 大分市舞鶴町一丁目4番1号
TEL 097-536-5050

- ・JR大分駅から 徒歩30分 / タクシーで10分
- ・大分バス「舞鶴町」下車 徒歩5分
- ・第1駐車場 約90台 / 第2駐車場 約30台



病院
ホームページ



採用情報
ホームページ



リバイタル
ホームページ